

郷土資料館だより

Vol.38 No.2

2015.12.15

企画展「こどもとあそび」報告

- 開催期間** 平成27年7月18日(土)～9月16日(水)※9月23日(水・祝)まで開催予定でしたが、館内燻蒸作業のため展示期間を短縮しました。
- 入場者数** 10,235人
- 会場** 郷土資料館1階企画展示室 ●**展示資料数** 448点

夏休み向けの展示として子どものあそびやおもちゃの展示を行い、江戸時代から1980年代頃までのものを時代別に展示しました。江戸時代の浮世絵・絵本、明治時代の双六・軍人メンコ、大正時代のブリキ・セルロイドの人形などを展示する一方で、幅広い世代が楽しめるようメンコ・ベーゴマ・紙芝居などの懐かしい昭和のおもちゃから、レコード・雑誌の付録・ファミコンなど記憶に新しいあそび道具まで展示しました。来館者からは「子ども時代を思い出した」「昔の美しいおもちゃの色彩がすてき」「孫にも見せて昔ののどかな遊びを話してあげたい」などの意見がありました。



展示風景



展示解説



かわり屏風

関連事業

◆「かわり屏風を作ろう」8月1日(土)9:30～12:00 参加人数8人

江戸時代からのおもちゃ「かわり屏風」を厚紙で作る工作体験をしました。厚紙に和紙を貼り付け、色を付けたり千代紙を貼ったりして参加者オリジナルの「かわり屏風」が出来上がりました。ただの厚紙だったものがパタパタと音を立てながら回転する不思議なおもちゃになると、参加者たちは楽しそうに何度も遊んでいました。

◆「展示解説」8月1日(土)14:00～45分程度 参加人数2人

企画展「三島のまつりの今」開催のお知らせ

●開催期間 平成28年1月3日(日)～4月10日(日)

古くから地域では様々な特色のある祭りが行われてきました。しかし、近年は担い手の減少などの理由から昔のままの形で継続していくことがむずかしくなっています。

今回は4つの祭りを取り上げます。各地域ではそれぞれの地域の実情に合わせてどのようにお祭りを行っているのか、といった視点から「まつりの今」を紹介します。

●取り上げる祭り

ドンド焼き(1月中旬)佐野、佐野見晴台、安久:今でも各所で行われる子どもの祭り

ヤッサモチ(1月中旬)佐野・中^{なか}最^{とも}寄地区:真夜中に餅をつく山神社のめずらしい祭り

オテンノウサン(7月上旬)安久、梅名、中島、大場、函南町間宮(P4,5参照)

間^{まどろみ}眠神社の例大祭(8月1日)東本町二丁目:葎山から毎年、大注^{おおしめなわ}連縄が運ばれます



安久のドンド焼き

佐野・中^{なか}最^{とも}寄のヤッサモチ伊豆の国市長崎区(旧葎山町)での
間眠神社例大祭用の大注連縄づくり

資料紹介：にぎわいを伝える絵はがき—呉服店の大売出し—

郷土資料館では、10月10日(土)～12月13日(日)まで、絵はがきを通して三島の歴史を振り返る企画展「絵はがきでみる三島」を開催しました。ここでは展示資料の中から、明治時代末の商売の熱気が伝わってくるような絵はがきをご紹介します。

今も昔も大勢の参詣者で賑わう三嶋大社は、三島随一の名所です。この三嶋大社の鳥居から南へ延びる通り沿いは、中世の門前市のなごりからかつては「市ヶ原」と呼ばれ、銀行や商家が立ち並ぶ、とてもにぎやかな商店街でした。この市ヶ原に店を構えていた呉服店「綿文」は、文政8年(1825)創業という老舗のおおきな店です。この綿文呉服店がおこなった、明治40年秋の大売出しの賑わいを伝える絵はがきが2枚残されています。

1枚目は「蛭子袋発売中店頭ノ光景」と題されたもので、群衆が呉服店に大挙し、屋根までいっぱい押し合っている様子が写されています。これは、三嶋大社で行われるえびす講に合わせて売り出された「蛭子袋」と呼ばれるお得な福袋を買おうと集まった人々で、朝5時から大勢の人で大混乱、警察も出動する騒ぎとなったそうです。今も昔も、「お買い得」に殺到してしまう心理は変わりませんね。

これだけの人が殺到したら、さぞかし店の中は大変だろう…思わず心配になってしまいますが、安心してください、店内の様子もちゃんと残っています！

突き出る無数の腕、跳ねんばかりの店員、ピントもぶれるほどの躍動感。2枚目の絵はがきは、この大混乱の店頭の様子を店内から写したものです。

群衆が殺到することを見越していたのでしょう、人々が店内になだれ込んでこないよう格子が設けられ、お客さんはみな格子の間隙から腕を出して蛭子袋を買い求めています。大忙しでてんてこまいのはずの店員さん、なぜか少し笑顔が見えます。もう笑うしかないほどの忙しさだったのでしょね。

今も三島市緑町で営業を続けている綿文さんにお話を伺ったところ、「お客さんは押し合いへし合いで、あちらこちらから押しつぶされるきゃーっという悲鳴が聞こえるので、悲鳴がしたほうから順にお金を受け取り、商品を渡した」という話が残っているそうです。当時の混乱ぶりがよく伝わってくるエピソードですね。



「蛭子袋発売中店頭ノ光景」



「蛭子袋発売中店内ヨリ其一部ヲ見タル光景」

三島の歴史とジオポイント・5

一耳石神社の三島溶岩製燈籠一

三島市幸原町69に鎮座する耳石神社は国狭槌尊(土の神)を祀るが、境内に置かれた御殿場泥流(約2,900年前に発生した富士火山東斜面の大崩壊に伴う土石流。三島市街地の大部分を覆う)によって運ばれた、耳形の窪みを持つ奇石「耳石」が有名で神社名となっている。

耳石は本殿の左右に1石ずつ置かれ、本殿を「顔」に見立てると、両耳にあたる。右耳が本来の耳石のようだが、掲載した写真は左耳である。

境内には6基の石燈籠が設置されているが、5基は三島溶岩製(約1万年前に新富士火山の初期の活動で流出し、古黄瀬川谷を流下したもの。溶岩は楽寿園などに露出している)である。

三島宿内の古い石燈籠の殆どは、伊豆国内産の凝灰岩や安山岩類で作られており、三島溶岩製の石燈籠は1基しかない。「三島市誌」は、この大場川沿いの路傍に置かれた石燈籠(竿のみで燈籠の体を成していない)を特異な存在として写真付きで掲載している。

本神社の参道入り口に設置されている2基は竿に記された設置年等を判読できる。

左側(写真奥)の角型燈籠は、「奉獻燈」「文政六未七月吉日」「願主嶋田組中」とある。1823年に伊豆島田の人達が奉納したものである。中台は逆さまに置かれ、火袋は作り直してある。安政東海地震・関東大震災・北伊豆地震などで何回も倒れ破損したのだろう。

右側(写真手前)にある円柱形の燈籠は、「享保十二年(1727年)」と記載されている。この燈籠も地震等で何回も倒れたのだろう。笠の張り出しが短いのは、先端が壊れたのでカットしたのだろう。火袋もコンクリートで補修してある。

他の3基は本殿前に設置されているが、一番左側の燈籠には「奉納御宝前」「□永七年」とあるから宝永7年(1710年)か安永7年(1778年)のいずれかに奉納されたものである。宝珠と火袋を欠くことから江戸時代のものである。左から2・3番目の燈籠は同型同大なので、一緒に奉納されたものだろう。「献燈」と記載されているのみで、奉納時期は不明だが、どこにも破損が認められず、北伊豆地震(1930年)以降に設置された可能性が高い。

長泉町内の神社境内や路傍には三島溶岩製の燈籠が普通に存在する。幸原地区は石材文化圏から見ると、三島宿圏ではなく、裾野・駿東郡の文化圏に入っていたのだろう。

なお、残る1基(本殿前右側)は長岡凝灰岩中部層(数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰が固結したもので、現在の長岡温泉周辺の石切り場産。同製品は三島宿内にも複数ある)製だが表面が風化剥離して奉納時期等は不明である。



耳石神社本殿 二つの耳石や4基の石燈籠がある



本殿前右側に置かれている耳石(左耳)



参道入口の石燈籠2基

中郷地区 オテンノウサン

愛知県の津島神社や祇園祭り^{てんのう}で有名な京都の八坂神社に祀られる牛頭天王^{ごずてんのう えきびょう}は疫病を防いでくれる神として全国各地で信仰され、天王信仰・祇園信仰などと呼ばれています。

中郷地域の大場などで行われているオテンノウサン(お天王さん)は祭りの夜に半裸の男性が神輿^{みこし}を担いで回り、沿道から激しく水を掛けられる独特の荒々しい祭りです。7月初めの土曜(昔は7月6日)に大場、梅名、安久、中島、函南町間宮で行われています。

オテンノウサンで担がれる神輿には派手な飾りなどはなく、網目状に縄がかけられているのが共通していますが、よく見ると地区ごとに特色があります。今回はこの神輿を中心にオテンノウサンのお祭りの地区ごとの違いを紹介します。



それぞれの神輿

1 安久 (津島神社系)



明治のはじめ頃、激しくなりすぎたために祭を一時中止していましたが、昭和57年に有志による保存会が祭りを復活させました。この時に神輿づくりを隣の梅名地区から教わったということで、梅名と似た形になっています。2本合わせた縄を使い、縦・横に網かけしていきます。神輿の頭には飾りが付けられています。神輿作りは王子神社で行われます。

2 梅名 (津島神社系)



向かって左が子ども神輿



子ども神輿づくり

2本の縄をよったものを使い、縦横8列に網かけしています。頭頂部には飾りが付けられています。右内神社で行われ、子ども神輿^{うない}も同時につくります。地区を8つのグループに分けて当番町を設定し、年ごとに当番町が神輿づくりや神輿担ぎを行います。

3 中島 (八坂神社系)



子ども神輿

細い縄を带状に見えるように縦・横に巻いていきます。2本の縄を7周回しているので、1本の帯に見える部分に14本の細い縄が並んで見えます。

頭には安久や梅名よりも小ぶりの飾りが付けられています。地区を5つの組に分けて当番の組が祭りを運営しますが、神輿づくりについては「伝統芸能保存会」が中心になって進めていきます。神輿づくりは八坂神社で行われ、子ども神輿も同時につくります。

4 大場（八坂神社系）



7本の縄をよった太い縄を使っています。他の地区と異なり頭の飾りは付けられていません。町内会が

中心となって祭りを運営していますが、十数年前、「縄からげ保存会」(会員約30人)が作られ、神輿づくりはこの会が中心に行なっています。神輿づくりは大場神社で行われます。

5 函南町間宮（八坂神社系）



縄が網目状にかけられていますが、梅名よりも網目の数が多いようです。また、頭に飾りが付けられていません。

昭和51年につくられた「保存会」によって神輿づくりなどの祭りの運営が行われています。神輿づくりは神明神社で行われます。

大場と間宮の競い合い

かつてのオテンノウサンは今よりもさらに荒々しく、隣の地区の神輿とケンカになることが頻繁にあったそうです。しかし最近ではそのようなこともなくなり、隣の地区の神輿と出会うこともほとんどなくなっているようです。

そのような中、大場地区と間宮地区の神輿が数年前に偶然出会ったことをきっかけとして、以降、この2地区では時間と場所を合わせ、大きな声を上げて激しく神輿担ぎを競い合っています。



たいこ 太鼓の先導



梅名お囃子保存会



大場八坂太鼓

神輿に先行して太鼓が打ち鳴らされます。「梅名お囃子保存会」、「大場八坂太鼓」、「中島八坂太鼓の会」といった若者有志による保存会のような団体が組織されていることが多いようです。

中島八坂太鼓の会では15年ほど前、京都の八坂神社に赴き、太鼓についての助言を求めたところ、地方の太鼓はおとなしい京都の太鼓とはすでにずいぶん

違っているのでそれぞれのやり方でやればよい、と言われたそうです。

郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成27年6月から11月までに行った事業をご紹介します。

6月

かみしばい(27日):参加者20人

7月

楽寿園の自然(19日):81人、旅人装束を着てみよう(25日):17人、昔のあそび(30日):65人

8月

かわり屏風を作ろう(1日):7人、古代の暮らし(6日):54人、昔の暮らし(9日):123人、機織り体験(9日):11人、クラフトづくり(16日):36人

9月

昔のどうぐ(13日):37人、立版古をつくろう(26日):19人、型染め体験(27日):15人

10月

昔のあそび(18日):64人、旅人装束を着てみよう(24日):22人

11月

布ぞうりをつくろう(7日):14人、かみしばい(7日):49人、楽寿園の自然(15日):74人



7月19日(日) 楽寿園の自然



8月6日(土) 古代の暮らし



8月9日(日) 機織り体験

企画展関連事業「絵はがきと写真でみるふるさと三島」報告

- 開催日時 平成27年10月31日(土)13:30~15:30
- 場 所 三島市生涯学習センター3階 講義室
- 参加人数 52人

10月10日(土)~12月13日(日)まで開催の企画展「絵はがきでみる三島」に合わせ、郷土史家関守敏先生を講師に迎え、絵はがきと古写真を通してかつての三島の様子を振り返る講演会を行いました。

当日は関先生が蒐集した約800点の資料から選んだ絵はがき・古写真をプロジェクターで写し、絵はがきの年代推定法や三嶋大社境内の変遷、今では失われた三島の風景など多岐に渡ってお話しいただきました。参加者の方からは、第二弾を望む声があがるなど、好評を博しました。



中学生職業体験学習報告

三島地区の中学生職場体験学習として中郷中学校3名、中郷西中学校3名、計6名の2年生が来館しました。来館日は企画展「絵はがきでみる三島」の開催期間中のため、企画展に関わる手伝いが多く、企画展でのお客さん対応、アンケートBOXやパネルの制作などを行いました。その他、古文書の整理、刊行物の訂正シール貼りなどの裏方の作業や、郷土教室の準備、体験も行い、楽寿園の自然をテーマにした郷土教室用にはどんぐり拾いを、菊祭りで賑わう楽寿園内では紙芝居の上演をしてもらいました。事務的な作業も多い中、一生懸命まじめに取り組んでくれました。



体験風景(中郷西中)

富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会主催 「駿東・北伊豆の戦国時代 バスで行こう！城跡めぐり」報告

●開催日時 平成27年11月11日(水)午前 7時45分～午後4時

●見学地 興国寺跡・長浜城跡・山中城跡 ●参加者 33人

3市博物館連絡協議会主催で戦国時代の城跡めぐりを行いました。今回見学したのは沼津の興国寺城跡・長浜城跡と三島の山中城跡で、いずれも国指定史跡になっています。当日は気持ちのよい秋晴れで、各見学地では担当職員から発掘調査の成果や史跡保存の状況についての解説が行われました。それぞれの地形をいかす築城の工夫がよくわかり、参加された方々には地域の歴史についての関心をより深めていただけたように思います。



平成28年2月14日(日)には連動企画として文化財講座「駿東・北伊豆の戦国時代」(於富士市消防防災庁舎)の開催を予定しておりますので、ご興味のある方は是非お運びください。

郷土資料館運営協議会視察研修

●開催日時 平成27年11月17日(火)

●見学地 韮山反射炉、堂ヶ島の水底土石流、西伊豆町一色の枕状溶岩、伊豆の長八美術館、中瀬邸、帰一寺、黄金崎の熱水変質

郷土資料館運営協議会では、委員の研鑽と他市町の事例研究を兼ねて毎年視察研修を行っています。今回は三島市文化財保護審議委員と合同で、今年世界文化遺産に登録された韮山反射炉を見学後、西伊豆町、松崎町の史跡やジオポイントを視察しました。以下は運営協議会の迫田委員長からの報告です。



韮山反射炉

11月17日、郷土資料館運営協議会・三島市文化財保護審議委員会合同の研修視察が実施され、今回は文化財とジオポイントを対象に7カ所を訪れました。

- ① 世界文化遺産・韮山反射炉は、伊豆の国市文化財課学芸員の案内で、反射炉の仕組み、時代的な背景、明治日本の産業革命遺産における位置づけなど。
- ② 漆喰芸術の殿堂・伊豆の長八美術館、明治商家・中瀬邸、なまこ壁の街などを、松崎町職員の案内で。
- ③ 臨済宗建長寺派の古刹・萬法山帰一寺は、33年ぶりに御開帳の本尊・聖徳太子作の弁財天を始め、伊豆三名園の裏庭、経蔵など。
- ④ 堂ヶ島の水底土石流、一色の枕状溶岩、黄金崎の熱水変質は増島副委員長(静岡県地学会東部支部長)の案内で。

寄贈・購入資料の紹介

平成27年7月から平成28年11月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。また、1点の資料を購入しました。

●寄贈資料

寄贈者名前	寄贈品	点数
渡邊 眞一氏(三島市)	古文書(文久2年3月「乍恐以書附奉窺上候」)	1点
和優講(三島市)	掛軸・大黒天像・古文書(自明治13年至昭和63年『金貨会計簿』)	3点
中西 克典氏(三島市)	ナショナル製レコードプレーヤー・EPレコードなど	9点
土屋 寿山氏(三島市)	古文書類・現代史資料・教育図書・郷土史研究資料など	83点
柳下 晃氏(三島市)	渡部菊二原画(小出正吾著『伊豆野の富士～江川太郎左衛門の話』挿絵・カット等〈未刊行〉)	50点
青木 照世氏(三島市)	蓑・蜻蛉笠・種蒔機・箕	4点
岩田 道彦氏(三島市)	優勝旗(末広山観音奉納競馬祭・八乙女神社祭典奉納相撲)	2点
兼高 俊氏(伊豆の国市)	間宮式手提金庫(壱号)	1点
野中 良久氏(三島市)	『朝日新聞』夕刊(昭和16年12月9日発行)	1点
増田 勇一氏(三島市)	流し台	1点
長澤 政太郎氏(三島市)	『教育勅語絵図解』(大日本国民教育普及会発行)	1点
三橋 年氏(三島市)	絵はがき、写真	8点
萩島 光子氏(函南町)	ラジオ	1点
池谷 美鈴氏(三島市)	シルバー編機、お祭り襦袢、蚊帳、姉さま人形、はんでん	7点
佐々木 啓氏(三島市)	デルビル電話機(教材用)	1点

●購入資料

山口余一宛新井石禅肉筆葉書	明治23年11月27日7行 墨書 三島の政治家・文人山口余一に宛てて曹洞宗大学林(現駒沢大)学監兼教授新井石禅がしたためた葉書で、「観音菩薩銅像 <small>たしか</small> に拝承致候」とあり、両者の交流をうかがえる資料です。新井はその後、横浜の総持寺の貫主となり、海外での布教に尽力したことで知られています。
---------------	---



▲渡部菊二原画(小出正吾著『伊豆野の富士～江川太郎左衛門の話』挿絵・カット等〈未刊行〉)の一部



▲間宮式手提金庫(壱号)



▲山口余一宛新井石禅肉筆葉書

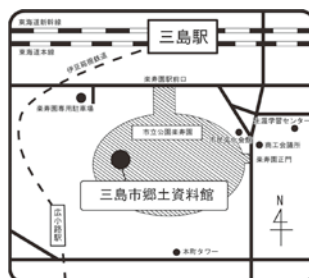
郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
午前9時～午後5時(4月～10月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
300円がかかります。15歳未満は無料、
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

郷土資料館だより

Vol.38 No.2(第113号)

発行日 平成27年12月15日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>